

# とよひら・りんく 地域医療構想シンポ

## 9 医療機関が課題整理

在宅医療連携拠点事業を推進する豊平区西岡・福住地区協議会「とよひら・りんく」（会長・五十嵐知文西岡病院副院長）は、道医、札医の後援を受け、「地域医療構想シンポジウム」を開催。

9 医療機関の理事長、院長らが、今後の地域完結型医療のあり方や医療・介護提供体制の構築について意見を交わした。

小川善之道保健福祉部地域医療課長は、札幌圏における地域医療構想の考え方と協議の進め方について講演。医療・介護ニーズの地域差を理解し、「地域ごと」に目指す医療のあり方を共有し、実情に即した対策を関係

者で協議していくこと」をポイントとし、構想実現に向けた課題として、

▼医療機関相互の役割分担と連携促進▼医療と介護が連携した地域包括ケ

アシステム構築▼医療・介護従事者の確保と養成を挙げた。

加藤貞利北海道整形外科記念病院理事長、遠藤高夫札幌しらかば台病院院長、中島茂夫西岡病院院長らは、「今後の生き残り前提とした医療連携体制の整備と整理」を課題に挙げた。

シンポジウムでは地域医療構想を踏まえ、病床機能や連携体制の現状、各医療機関が目指す方向性や課題などをそれぞれ紹介した。古家乾JCH

伊藤利道道医常任理事や宮崎誠一札医統括理事、神田雄司同支部長は、「各区でも協議の場が広がり、市全体での調整会議へとつながれば」などと述べ、座長の西澤寛俊恵和会理事長は「今後もオープンな会議や病院レベルでの部会なども開いていきたい」とし、今後

O北海道病院院長は「地域包括ケア推進には住民の理解が必要」と述べ、金子貞男柏葉脳神経外科病院理事長や磯部宏KKR札幌医療センター院長は、「人材不足に対応するための効率的な運営や各病院の機能を生かした連携」を強調した。

本庄恭補札幌ライラック病院院長は「在宅診療所の後方支援に向けた病

床の確保が課題」、小坂昌宏小坂病院院長は「介護医療院への転換をどのように進めていくか」、華岡慶一華岡青洲記念心臓血管クリニック理事長は「自院の急性期機能を地域にどのように還元していくか」などと指摘。

も細かな情報共有と議論の場を増やしていくことを確認した。



豊平区内の9つの医療機関の理事長、院長らが協議